



ぎんなん

中原小だより（中原小校長室）
第41号
R2.3.27

いよいよ最後

月曜日に修了式を行い、火曜日は卒業生と保護者だけの卒業式、そして今日、退任式でした。始業式や終業式を放送で行ったことはありましたが、修了式を放送したのは、長い教職生活の中でも初めてでした。学校全体で集まることはできませんでしたが、小さな学校のよさを活かし、各学級を回って、私から全児童に一人ずつ修了証を渡しました。一緒に工作展の状と私からの今年1年がんばった賞状も渡しました。

放送では、子ども達への最後の話として命の大切さについて話をしました。直接顔を見ながら話せなかったので、話した内容を少し紹介し、まじり緒にお読みください。

修了式での言葉

『3月2日から臨時休校となり、みなさんは家庭で過ごしたり、親戚の家で過ごしたりして、いつもと違う3月の学年末を迎えたと思います。退屈だなあと思った人もいるでしょう。中には、ゆっくりゲームができると喜んだ人もいるかもしれませんね？

いずれにしても、友だちと楽しい学校生活ができずに、さびしかった人がほとんどだと思います。なぜこのように休みにになったか低学年の人は難しいかもしれませんが、それは、みなさんの命、家族の命、周りの人の命を守るためです。

校長先生の身近なところや、これまで勤めた学校で、子どもが、病気や事故で亡くなる（死んでしまった）ことが、他の先生方より少し多いからかもしれません。学校のいろいろな行事があると、あの子が生きていればち



よき今年が卒業式だなあとか、成人式に参加すると生きていけば成人式だなあと思うことがありました。明日の卒業式も参加者が限られたさびしい卒業式になるかもしれません、生きているからこそ卒業式を迎えられるのです。これはうれしいことなんです。この前の3月11日は東日本大震災から9年たちました。ニュースの報道でも卒業式を迎えられず亡くなった子ども達も大勢いたと報道がされていました。みなさんの命はとても大事なものです。絶対に粗末にしたりしてはいけません。どんなにつらいことがあっても生きていけば、必ず次に人生の大きな節目の行事を経験できるし、必ず幸せなことが待っています。今年度の修了式や明日の卒業式は、さびしい気持ちになるかもしれませんが、命を大事にし、生きていれば大人になったとき、笑いながら思い出として話せることができると思います。』

深く思い出に残った卒業式

在校生と来賓の方は不参加という卒業式でしたが、深く思い出に残る卒業式でした。

練習もほとんどできずに、ほぼぶっつけ本番の卒業式でしたが、4名の卒業生は自信にあふれた態度で、卒業証書授与も呼びかけもさすが中原小の6年生だと感心しました。

保護者の方への手紙も一人一人の素敵な個性が出ていて、聞いている私たちも感激し、涙が止まりませんでした。在校生がいないことはさびしいのですが、参加した卒業生と保護者の方、そして先生方が1つになって作り上げた感じがしました。だからこそ、より感動が強かったのかもしれない。

子ども達の卒業式後、私の卒業式まで開いてくれて、もう涙が止まりませんでした。休校の中いつの間に準備したのか……。お礼の言葉も感激して言えませんでした。

あらためてこの場を借りてお礼申し上げます。37年間の教職生活をここ中原小学校で終わることができ、本当に幸せでした。ありがとうございました。

